

**住民の共生活動を推進するための、**  
**地域の小中校生の夢を叶えます基金運営**  
**南流山子ども食堂の会**  
**金川泰三**

◆自己紹介および今回のアイデアに至る背景

私の所属している団体「南流山子ども食堂の会」は一般市民のみのボランティア団体です。2017年10月より活動を開始し、地域の子どものために「子ども食堂の開催」「コロナで経済的な影響を受けている世帯への無料食材配布」「無料学習支援」の活動をしてきました。地域の方からお金や野菜などのご寄付、社協の協力、各団体からの助成金をいただきながら運営しており、活動に大きな課題を感じたことはありません。つまり、住民が活動するのに仕組み上は大きな問題はないと思っています。

一方で、“つまづき”が全くなかったわけではありません。“つまづき”とは何か？それは住民がやるべきことなのか？と賛否両論が発生する点です。そういったつまづきがなければ、もっと住民主体による共生活動を加速できるのではと想い、つまづきを解決できるアイデアをお伝えします。

◆住民が主体となる活動においてのつまづき（賛否両論が発生する点）は何か？

活動をしている中で、以下4点が賛否両論が起きやすい点だと感じます。

- ①意義／行政や各福祉法人による支援体制があるのになぜ住民が活動する必要があるのか？
- ②責任／そういう状況になっているのは、自己責任ではないか？
- ③不公平感／無償提供がもたらす、ねじれた不公平感
- ④実施内容範囲／ボランティア（無償）行為がもたらすのやること増大リスク

それぞれの詳細と躓きの解決方向性を述べていきます。

①行政や各法人による支援と同一テーマを行うと、実施意義が不明瞭となります。行政や各福祉法人による支援では対応できていないテーマを設定すると、一般住民が介在しやすいです。

②貧困世帯への支援を行っていると、そういう状況に陥っているのは自己責任ではないかという話をされる方がいると感じます。ただ貧困世帯の子どもへの支援となると、そのような会話はできません。対象を子ども達にすることで賛否両論が減らせます。

③私たちは経済的に困りの世帯に対して活動しているため、無償提供をしています。ただ無償は魔物だと思っています。具体的には、無料で食材配布をしている際、「あの世帯

は困っていないのに、無料でもらっている」などという他人への批判が出て、無償提供というものが逆に不公平感をうむという、ねじれ事象が発生します。「無償」という魔物の根本解決には、「少額でも有料化する」または「コンテスト式にする（応募準備が必要で選ばれる方式にする）」「基準を整備する（柔軟性を損なわない範囲で）」などの工夫が必要だと考えています。

④ボランティアだからこそ、活動する住民が行う内容が増大していく可能性が高いです。何までやる必要があるかを明確することが重要です。

上記①～④の解決、具体的には「対象／子ども」×「テーマ／行政支援ではできていない」×「コンテスト形式」×「活動範囲を規定」が必要だと考えます。上記を満たすアイデアとして、以下「地域の小中校生の夢を叶えます基金の運営」を提言いたします。

### 【内容イメージ】

地域の小中高校生がご家庭の事情でやりたくてもできない事に対して、夢を叶える基金です。その子どもの興味関心を伸ばし、未来のキャリアにつながる事を優先的に選び支援します。

例えば、保育士になりたいと思った子どもがピアノを習う費用、考古学者になりたい子どもが地層の発掘現場まで行ける費用を支援します。（私たちが接している生活保護世帯の子どもたちが諦めている点であり、つまり行政支援が行き届いていない点です）

対象／小中高校生

支援規模／年間一人最大 10 万円まで ※習い事 1 年間分や一回の旅行が賄える規模

選考方法／子どもからの応募を集め、審査会をし通過したもののみに対して支援をします

審査観点／なぜそれをやりたいのか？の理由・予算・ご家庭のご事情でできない理由

座組み／

A) 全国分を取りまとめる母体団体／役割：統括、助成原資提供、運営基盤提供（チラシ、応募フォームなど）、運営事務局を担う住民の募集と選定

B) 住民／役割：その地域の運営事務局（具体的には、地域の子どもの達への広報、地域の住民たちへの寄付募集、地域の審査会運営）

C) その地域の社協、市区町村の福祉課など／役割：その地域の審査委員

施策のポイント／

・母体団体から運営に必要な準備物（チラシや応募フォーム等）を整備し提供し、チラシや応募フォームが作れない住民でも運営が出来る状態を実現する。

・地域住民が、その地域の住民から寄付を集めれば集まるほど、子ども達の夢を叶えることができる数が増やせる仕組みを実現する。（住民のやりがい構築）

・地区社協や福祉課など地域の福祉基盤と、住民が連携し審査をすることで、地域のプラッ

トフォーム状態を構築し、戦略的に次のアクションにつなげやすくする。

以上です。